

はくさんさん

豊かなお会式

第79号 H23年秋号

伊豆市 法住寺 発行

「良いお会式でしたねえ」何人もの方から、そうしたお声を頂きました。これも偏に護持会役員さんはじめ、檀信徒の皆さんのお陰と、心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

*



清らかな灯りをお祖師さまへ

今年も子供たちの献灯、献花が行われました。本堂に電子オルガンの曲が流れ、昌子寺庭の蓮の花の歌が響きます。子供たちが清浄な灯りを丁寧にかかげ、お祖師さまに捧げます。毎年のことですが、

ジーンと感動するのです。けなげな子供たちと清浄なローソクの灯り、本堂一杯の皆さんの気持ちを感じ合っているのです。

お経も素晴らしいものでした。今年を私を含めて六人のお坊さんで、当山としては久しぶりに多かったのですが、檀信徒の皆さんの清々とした声とが響き渡り、躍動感を覚えるお経でした。

*

台所は小川地区の女衆のご出仕で、煮物の美味しかったこと、里芋、コンニャク、昆布、ごぼう、人参。日頃コンビニ弁当の若い衆が感激、豚汁も何杯もおかわりしていました。おから、ねぎぬた等々「このお会式でなければ食べられにやう。毎年、楽しみにしてるさうあ」そんな声も聞こえてきました。

材料の里芋やネギは、自分の畑で作って奉納、コンニャクは玉から採って手作りしてくれました。お供え餅やお供物の餅、新米、お酒、もう沢山のお供えを奉納していただきました。

*

夜の万灯行列は初めてでしたが、白龍会の

元村の村中を煉り歩きました



皆さんが、この地元で灯りの万灯を出したい、地元の衆にも池上の万分の一でも良いから夜の万灯を見て感動してもらいたいと頑張りました。富士宮市の大泉寺さん、葦山原木の実成寺さんからも参加してくださいました。

*

大地の豊かな恵みに感謝し、皆さんに食べてもらえれば嬉しいと、その恵みを奉納して下さる方々がいて、当番の皆さんが喜んで料理して下り、そして檀信徒の皆さんが美味しさと喜んでご馳走になり感謝し、また他人の為になつていく。こうした行いを報恩感謝と云うのでしょうか。こうした善意をお祖師さまに捧げたのです。

何と豊かなことでしょうか、これを文化とい

わず何と云うのでしようか。何百年と続けてきた先人の情熱と、地元に根ざした豊かさを、改めて思う良いお会式でした。

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

ここに何年もずっと捨てられないでいる一枚の写真がある。(古い何かの雑誌の表紙で、もうとつくに処分しても良さそうなものだが)何故かこの一枚を大切にしている。それは青磁の美しい茶碗に、ひびが入っていて、そのひび割れた処に『かすがい』が打ってあり補強されているのだが、そのことがその器の存在を強烈に印象付けているのだった。写真とはいえ、私の宝物のように思ってきた。

*

最近になってこの茶碗は、平安時代末、平重盛が中国から頂いたもので、その後室町時代に足利義政のものとなり、その折、底に大きなひび割れがあったため中国に送って代わりを求めたところ「この様な すぐれたものはもうない」ので『かすがい』を打って丁寧に送り返されたことを知った。

青磁茶碗 銘「馬蝗絆」



そのことで私は自分自身がこの『かすがい』とやという『金接(きんつぎ)』に何とも心ひかれていたことに気付かされる。この金接ぎによって、器の美しさが更に奥深い輝きを増しているように思えてならない。

*

ときに人生ひび割れて、人間関係にもとり返しがつかないように思うこともある。かけがいのないものは、接いで、接いで、心底涙を流して努力して、再びよみがえらせてほしいと思う。そこには又、味わい深いものが生まれるやもしれない。

今こそ先人の温かい智慧に学びたいと思う。悲しみの中で、ひとり立ち止まってしまっているあなたへ。

トピックス

・東日本大震災義援金

三月の発生直後から義援金箱を本堂に置き、参詣の皆さんにお願いしてきました。義援金募金は、街を歩けば何回も出会うでしょうし、いろいろな団体が募金しています。皆さん、その都度、何回でも応じていきましょうと、お話ししてきました。

八月三日、お盆の施餓鬼会の後で、護持会役員さんに義援金箱を開けてもらいました。その結果、一〇〇、二四七円もの沢山の義援金を頂くことができました。これにお寺を代表して住職が十万円加えて、日蓮宗に届けました。

復興はこれからです。これからも支援し続けていきましょう。また、復興増税が議論されていますが、次世代の若者に多くの借金をまわすことのないようにしたいものです。

尚、以前より本堂に置いてある義援金、救済金の二箱には合計一〇、四九〇



お盆のお施餓鬼、お焼香

円の募金を頂きました。震災前の二月に東部宗務所社教会を通して、地元の社会福祉団体や国際災害援助に寄付致しました。

・境内整備

秋のご奉仕は、元村③の皆さんでした。境内周辺の草刈りが主な作業でした。少ない人数でしたが、世話人の飯田忠さんを中心に頑張って下さり、気持ちよく秋のお彼岸を迎えることができました。皆さん、ありがとうございました。

・池上団参

今年は平日でしたが、白龍会（小塚順一会长）の皆さんは、

「やつぱり、行きたい」となったのです。中央バスに三十七人が乗り、昼過ぎに出発、心意気の上がる万灯を池上のお祖師さまに奉納するこ



池上大堂裏、お疲れさま

とができました。

・寺子屋

今年も八月七、八日の二日間、寺子屋が開かれました。

子供たちが、真剣にお経を読み、キチッと正座してお題目をお唱えする、そこには善神が降りてきて下さり、子供たちを護ってくれていることを実感するのです。

今年のレクレーションは魚釣りです。餌は、うどん粉を練ってつくりました。竿は近くの山から採ってきた竹です。最近は様々な遊びがあつたり、子供が少なくなつたりで、川で釣りしている子供を見ることは殆どありません。川で魚が釣れること、そのものが子供



西川で。沢山釣れたよ

たちにとって、びつくりなのです。釣れるかチヨット心配だったのですが、「釣れた！ 釣れた！ 沢山釣れた！」遊びは子供を育てるといいま

すが、「竹採り」竹を選ぶところから釣りは始まっています。細からず太からず、しなりのよいものを探します。「餌づくり」うどん粉の練り具合、本当はミミズがいいのですが、「何処で釣るか、何時頃がいいか」等々、自然相手の遊びは限りなく創造性をたかめます。

保護者のお母さん方や中学生のサポートの皆さん、ありがとうございました。

・蓮の花

お盆を前に見事な蓮が本堂に供えられました。シルクアートの工藤愛子さんが、わざわざ来山、花いけして下さいました。

工藤愛子さんは、長年にわたりシルクで蓮のアートを作り続け、各地の美術館や資料館等で作品を展示しています。春には身延山久遠寺資料館で展覧会を行い、夏には山梨県北杜



工藤愛子先生の蓮のいけ込み

市の「ギャラリー・ぶらり」で、4人の作家と共に展示会を開きました。



洋明さんのおはなし

急坂を登り、帰りは下ります

無事に帰りの下りです

『感応・かんのう』
仏さま諸天善神と私たちの心が通じること。仏天が、私たちの行いや感じたことに応じてくれることをいいます。

*

先日、十四名の檀信徒の方々と一泊二日で七面山登詣を行いました。参加者それぞれの心に、七面山大明神からの贈り物「感応」を頂けるとの思いを持って一致団結。天気予報では雨でしたが、登詣中は天候にも恵まれ、ご加護を感じながらの登詣。山頂では、またの機会に登詣させて頂くことを願う鐘を突き、無事に七面山敬慎院に到着。檀信徒の皆



さんとの絆がより深まり、まるで家族のようでした。敬慎院では精進料理を頂き、入浴等では石鹸を使えないなど、時に不便を感じたことも、普段「当たり前」のことが「ありがたい」ことと、改めて感じました。

*

敬慎院の本堂には『感応』と彫られた額があります。御開帳のとき、一心にお題目を唱えた時や、早朝、雲の隙間から神秘の色に染まった空が見えたとき、皆それぞれが感じたことは、七面大明神が応じて下さり、言葉では言い表せない心の宝物を頂いたということです。

一緒に登下山して生まれた思いやり、助け合いの絆、感謝や足腰の痛みに気持

ちが負けることなく歩けたことも、そのひとつでした。

今回の団参では七面大明神との『感応』を一人一人が感じ、経験させて頂き、目には見えないご加護、心の宝、また沢山のご縁を頂いたことに大慈大悲大恩 御報恩謝徳。

*

仏天は、大慈大悲をもって皆等しく『感応』して下さいます。ただそれが目に見えない力であるからこそ、まずは信じる事が最初です。その人の日々の信心や行いによって感じるものが変わります。登詣出来れば出来たりの、出来なくても出来ないなりのもを頂けます。

ただ、どちらが良いのではなく、どちらも良い、そしてどちらもありがたい。その人の気根に応じて、色々な場所、かたちで感じさせてくれます。

*

この『感応』を七面山登詣だけでなく、日々の中で頂けること、その先にある皆さんの心の幸せを祈念し、ぜひ皆さんと一緒に修行出来ることを楽しみにしています。

御志納金「八月〜九月」

- 五十万円 西 佐藤秀夫殿 尊母七七忌 御
- 五十万円 小川 室野千肥路殿 尊父葬儀 御
- 三十万円 元村 飯田政春殿 尊母葬儀 御
- 十万円 元村 井本和男殿 尊父三回忌 御
- 十万円 元村 飯田政春殿 尊姉二三回忌 御
- 十万円 西 飯田信子殿 夫君五十回忌 御